

3 紀の川流域委員会勉強会 報告

第1回～第5回

紀の川流域委員会勉強会（以下「勉強会」）は、「紀の川水系工事実施基本計画」について委員の知見を深めるため、第9回紀の川流域委員会において、養父志乃夫委員を座長として設立された。

本章は、平成13年8月9日開催の第1回勉強会から平成15年3月10日開催の第5回勉強会の報告を記載する。文中の記号は、下に示す注釈の発言者を示す。

注釈：

委員の回答
河川管理者回答

平成14年8月9日

第1回紀の川流域委員会勉強会 報告

委員長 中川博次

紀の川流域委員会勉強会の報告

養父座長から8月1日(木)にJA会館で行われた、紀の川流域委員会勉強会についての報告があった。主な内容は次のとおり。

1. 座長代理について
 - ・ 座長代理は神吉紀世子委員を指名した。
2. 紀の川流域委員会勉強会の進め方について
3. 紀の川水系工事実施基本計画について
4. 次回開催について

それぞれに対する主な意見等は次のとおり。

- ・ 勉強会では研究者グループの説明は「必要ない」となったが、研究者グループからの質問はどこですれば良いか。

勉強会で呼ばないという事になったのなら、必要性を認める委員自身が研究者グループの質問を明らかにし、お話になれば良いと思う。

- ・ 16,000m³/sがおかしいと思っていたので、研究者グループに勉強会で説明してもらい、委員の方にも理解してもらいたかった。しかし、他の委員が説明の必要がないという事であれば仕方がない。
- ・ 研究者グループが納得していないという言い方であったので「必要ない」と勉強会で発言した。勉強会ではまず、委員が理解を深めることが大事である。
- ・ 委員が「必要だ」という認識で合意に至れば、専門家に参加してもらえばよい。

平成14年9月27日

第2回紀の川流域委員会勉強会 報告

委員長 中川博次

紀の川流域委員会勉強会の報告

養父座長から紀の川流域委員会勉強会の報告があった。主な内容は次のとおり。

- ・ 前回勉強会での質問の回答
- ・ 計算条件の違いについて
- ・ 委員から出された意見の主な内容
- ・ その他

平成14年11月18日

第3回紀の川流域委員会勉強会 報告

委員長 中川博次

紀の川流域委員会勉強会の報告

養父座長から10月31日(木)に行われた、第3回紀の川流域委員会勉強会(現地視察)の報告があった。

委員22名中10名の参加者のもと、紀の川の河口付近から二見地区まで18箇所を視察した。

主な視察箇所は次のとおり。

紀の川河口付近	紀の川大堰	直川ワンド
岩出井堰	貴志川合流点	花野地区
嶋地区	藤崎井堰	藤崎ワンド
新田地区	慈尊院地区	小田井堰
安田嶋地区	岸上地区	恋野橋周辺
上野公園	阪合部橋周辺	二見地区

平成15年1月20日

第4回紀の川流域委員会勉強会 報告

委員長 中川博次

紀の川流域委員会勉強会の報告

養父委員から第4回紀の川流域委員会勉強会について説明があった。

主な内容は次のとおり。

前回勉強会での質問に対する回答

- ・飽和雨量について
- ・総合治水における取り組み(大和川)

昭和34年9月型洪水における氾濫箇所の分析について

- ・要望書で提出しているグラフを使って次回の勉強会で説明をお願いしたい。
次回勉強会で説明する。

平成15年3月10日

第5回紀の川流域委員会勉強会 報告

委員長 中川博次

紀の川流域委員会勉強会の報告

養父委員から第5回紀の川流域委員会勉強会について説明があった。
主な内容は次のとおり。

- ・ 飽和雨量について
- ・ 流域対策のコストについて
- ・ 紀の川流域のため池について

報告に対する主な意見等は次のとおり。

- ・ 勉強会において示された、要請書における提示グラフに誤りがあることを指摘する。
誤りはないと考えているが、誤りがあるのであれば具体的に示して頂きたい。